

松屋筆記

卷世六

15
1397
20



門 15
號 1397
卷 20

昭和二十六年
高田早苗

松屋筆記 廿六



三十三

Handwritten notes in cursive script at the top of the right page.

Handwritten text, possibly a name or title, in the middle of the right page.

Handwritten text on the left side of the right page.

松屋筆記 卷廿六 目錄

- ① 均輸法
- ② 後妻多敗家
- ③ 葬送擇吉地
- ④ 臘月
- ⑤ 臣不諫言不情不通
- ⑥ 白山
- ⑦ 至察の人を徒
- ⑧ 錢貫
- ⑨ 非時の花

十 博覽
 九 家風
 八 知人
 七 初
 六 義賊走卒
 五 鳥籠く鳴雛
 四 陸海
 三 殺青
 二 墓前石碑并壽藏
 一 天の號令

廿 李杜
 廿一 家學
 廿二 土山
 廿三 天子妙質と公卿の質長
 廿四 食之身肉
 廿五 義徳
 廿六 上事門
 廿七 逆取順守 交絶不出 意に聲
 廿八 同戦之地
 廿九 野心

卅 市井
 卅 内政
 卅 川
 卅 二股武士
 卅 御溝
 卅 齋宮
 卅 重復
 卅 烏辭人
 卅 陰陽石
 卅 三峰山

卅 無雷
 卅 仲好大不德
 卅 献物多者其國虛
 卅 子其母子厚
 卅 死者湯殿立山
 卅 去子

松屋筆記卷卅六

東都 源與清又儒稿

○均輸法

後漢書朱暉傳下尚書張林上
 言穀所以貴由錢賤故也可盡
 封錢一取少帛為租以通天下之
 用又鹽食之急者雖貴人不得
 不須官可自強前書曰因官器
 又直因交益州上計吏往來市
 珍寶收其利武帝所謂

均輸者也武帝作均輸法詔州郡所出之土
地所出之物官自轉輸於是詔尚書
通議暉奏據林言不可施行事
遂寢後陳事者復皇述林前議以
為於國誠便帝然之有詔施行暉
復獨奏曰王制天子不言力在諸
侯不言多少祿食之家不與百姓
爭利今均輸之法與賈販無異
隨利歸官則下人窮怨多帛
為租則吏多姦盜誠非明立所當

直行帝卒以林言為允暉
重譴因致怒猶責諸尚書暉
等皆致獄三日詔赦出之曰國家
樂聞敢言暉因稱病篤不肯復
耳何故自斃暉因稱病篤不肯復
署議之按子本朝均輸之法行
錢の類二後妻多敗家
同傳の注子華婿書曰暉年五十九

失事昆弟欲為繼室時嘆曰時
 佐希不以後妻敗家者遂不娶也
 子按子晉歎公之鄙姬豐太周之徒
 殷之類和漢之例あらず子遂行い
 漢呂后平政子の歎後妻たぬど回
 上皇后平政子の歎後妻たぬど回
 家此誤りものサかむら母夫とす
 ん
 三 葬送選擇吉地
 葬送の吉地地擇るとい墓相の

一端を余段の墓相或向より
 後讀書袁安傳子初安父汝母使
 安訪求葬地道逢三書生問安
 何之安為言其故生乃指一畝云
 葬此地當世為上公須臾不見安
 異之於是遂葬其所此之地故
 累世隆盛焉多魏志管輅の傳
 子母丘儉の墓の古相なること
 墓相不可思也墓相家の漢書
 烏子晉郭璞の祖述ん

臘月

十二月朔臘月也... 臘神也... 祭以報功也... 臘用戌日也... 新故の象也

祭之臘也

臣不諫言... 下情不通於上... 臣重祿不極諫... 下情不通... 死... 六 白山

越の白うがい今の加賀人の白うがい白山と云ふは、
白河の絶壁、
能くわらう力をこころ後漢書班超傳の注、
西河蒼朮、白山之中有、
好木、白奴謂之天山、去北捕頽海、
百里、郭義恭、唐志曰、西域有、
白山通、
崑崙山、
雪、亦名、
雪、
崑崙山、
同傳、
贊、
の注、
ハ葱嶺、
雪山、
白、
龍、
堆、
沙漠、
也、
と云、
わが、
つ、
こ、
え、
唐、
土、
も、
雪、
山、
と、
白、
山、
と、
い、
ひ、
づ、
と、
一、
佛、
國、
禪、
師、
家、
集、

他阿上人、
集、
な、
ど、
ま、
の、
つ、
り、
も、
い、
ろ、
と、
云、
ま、
こ、
の、
す、
り、
と、
し、

七 至察の人を徒

後漢書、
班超傳、
超謂、
汪尚曰、
君、
性、
嚴、
急、
水、
清、
を、
大、
矣、
察、
政、
不、
得、
下、
和、
直、
湯、
侯、
簡、
易、
寬、
小、
過、
聽、
大、
調、
上、
而、
已、
矣、
注、
子、
家、
語、
孔、
子、
曰、
水、
至、
清、
則、
無、
魚、
人、
至、
察、
則、
無、
徒、
と、
言、
是、
清、
日、
人、
の、
君、
と、
い、
は、
る、
人、
の、
師、
と、
い、
は、
る、
を、
さ、
る、
は、
諺、
也、
と、
い、
は、
る、
を、
引、
け、
る、
は、
余、
此、
を、
失、
れ、
る、
也、

思之可慎之
 今悔いどしかりあり可

ハ 銭貫

史記酷吏傳 後漢書の翟璜 輔傳の至倉穀腐而
 不可食 錢貫朽而不可校 子
 和名物 上金類 都良ととく之を今 佐
 錢貫也 世述 都良ととく之を今 佐
 前年也 謂 海 義也 曰工良子 綴宝
 右千條と 記せりし 銭何貫と あり

九 北時の花

武烈論 平年成三弘治二年は 子鳥合伊賀守忠吉云し 積置ん 鍾ヲ指テ三守カ貯ヘ
 授世三友ト 聖ノ指貫文宛 魏ラテ 棚之 隆三ノ 殿を 重テ 如斯 左時ノ 破也ノ 一ナシ 賢々
 積ニ積ニ 貯ガ 蓄ニト 教ハ 善ニ 神居 此中ノ 胸臆ニ 存セラシ 後年 乃老 長ノ 刻迄 如
 斯ノ 銭ヲ 倉庫ニ 積ニ 是鳥 倉ノ 教ニ 昔年 説有ニ ト云々

今 佐ハ 九月 或ハ 十月 とも あり けり 子 抄 傳
 子ノ あり とも 北時ノ 峯 とも あり 佳 瑞
 いろ 人 あり とも 山 とも あり あり
 後漢書 應劭 傳 子 者 一 草 花 則 為
 災 秋 一 木 華 亦 為 異 とも あり 更 子
 佳 瑞 とも あり 子 あり とも あり

十 博覽博識

蜀之六帖 今の世 後漢の 學者 博覽の 君子 妖妖
 免 傳 子 海 以 一 博 覽 之 意 也 一 書 子 精 通 以 子
 合 流 為 大 厚 子 以 博 覽 為 私

周書荀
而不好書句
陽市肆園所賣書一見輒能誦
情遂博通流百家之言後歸
鄉里屏居教授仕郡為功曹以教
誦章不合去充好誦說始若詭
異然有理實員以為右儒守文
多失其真乃閉門潛思絕度予
之禮戶牖壁各置刀筆著論衡
皆所誦之

晉書劉元海
氣蓋上一物
之不知者固居
子之所和也

ハ十五篇二十餘萬言釋物類同異
正時俗嫌疑あり也

家風

家風といふは皇國の古書子の
不之歌子との川と書かすなり
後漢書楊倫傳注子華高書
曰東京楊氏袁氏累世宰相為
漢名族也袁氏車馬衣服極
為奢僭然守家風為世所貴不
及楊氏也潘岳集卷思家風

詩云々 度信集卷一 哀江南賦序
潘岳之文彩始述家風 歌
ある指遺 二 菅原世

六才の月の様もあけりあること
ゆとゆとをさへしうれきし
戯言の遺り

後漢書 神高侍子 高同 娘 縣門下
史時 河南 平田 歆 外甥 王 錕 肥 名
知人云 泣子 有 知人 之名 也 云 哉

子知人の人の賢 不肖 此 察 知 以 子
地いし

十三 附

附 配葬 今の世 少き なる 相
教と ころもの 夫の 墓子 後子 妻の 地
配葬 井の 亦お 後漢書 陳
球 傳子 熹平 元年 賞 太后 前 大
后 本 遷 南宮 雲 居 太后 父 實 官
以 衣 車 載 后 尸 置 城 南 市 舍 教 曰

中常侍曹節王甫欲用貴人禮
彌中曰太后親立朕躬統承大
業詩云無德不報無言不酬
也豈宜以貴人終乎於是致
禮及為葬節等復欲別葬大
后而以馮貴人配祔祔謂新死之主也祔於
於其夫祔之妃也禮記檀弓篇子周
公蓋祔多注法謂古葬自周公以來
始云說文子後死者右食於先祖
有也

○古新錢走年錢

後漢書虞詡傳是時長吏二千
石取百姓適者輸贖號為義
錢託為負人儲而守倉因以聚歛
詡上疏曰元年以來負百姓年
長吏受取百萬以上者勾不絕適
罰吏人至數千萬而三公刺史
十餘年受身承平章和州郡
以走年錢作負人司空劾案
州及郡縣皆坐免

典^中蜀^中律^中權制^中於^中是^中詔^中書^中下^中詔^中章^中
 切^中責^中州^中郡^中適^中罰^中輸^中贖^中自^中此^中而^中止^中
 之^中注^中子^中走^中卒^中但^中伯^中之^中勅^中也^中續^中漢^中志^中
 曰^中但^中伯^中公^中人^中中^中二^中千^中石^中六^中人^中千^中石^中六^中百^中
 石^中皆^中曰^中人^中自^中百^中石^中以^中下^中至^中二^中百^中石^中皆^中二^中
 人^中黃^中後^中武^中官^中但^中伯^中文^中官^中辟^中車^中錢^中
 下^中侍^中尚^中門^中蘭^中部^中署^中街^中里^中走^中卒^中皆^中
 有^中程^中品^中多^中少^中隨^中所^中典^中領^中卒^中皆^中每^中
 債^中俸^中禱^中即^中行^中親^中杖^中者^中也^中此^中言^中
 錢^中者^中若^中其^中出^中資^中錢^中不^中役^中其^中身^中也^中

三^中羽^中義^中錢^中今^中之^中過^中科^中錢^中也^中
 卒^中錢^中鞭^中杖^中行^中者^中若^中其^中也^中死^中也^中
 資^中錢^中也^中其^中役^中也^中免^中也^中今^中之^中
 世^中受^中信^中之^中役^中刺^中也^中非^中人^中之^中受^中也^中後^中
 づ^中比^中錢^中也^中其^中免^中也^中也^中

(五) 鳥の雄と鳴唯以

同^中書^中司^中爽^中停^中鳥^中則^中雄^中者^中鳴^中
 唯^中雌^中欲^中順^中服^中獸^中則^中牡^中為^中鳴^中通^中
 牝^中乃^中相^中行^中也^中也^中易^中說^中卦^中の^中文^中也^中今^中
 七^中鶴^中の^中雄^中は^中鳴^中て^中雌^中を^中報^中む^中也^中

形を報る」となり

十六 陸海

関東ハ州の平地尾張河京以
よの平地也陸海と云ふ
後漢書陳寔傳云三輔平敞四面陝
固土地肥美號為陸海注子前書
同東方朔曰三輔之地南有江淮
北有河渭汧以東高洛以西
壤肥饒此所謂天府陸海之地
也

十七 殺青

殺青ハ竹の油を取て書寫す
也
後漢書吳祐傳云欲殺青者以
火炙之令汗取其青易書復
不氣謂之殺青亦謂汗簡載
見劉向別錄也
十八 石碣并書藏
後漢書趙岐傳云年三十餘有

重病。自^ス處^ニ在^ル勿^シ乃^チ
為^シ遺^シ令^テ教^メ兄^ト子^ト曰^ク。大丈夫^ノ生^テ世^ニ。運^ニ
無^ク算^シ其^ノ山^ノ之^ノ操^ヲ。仕^ス在^リ伊^ノ吾^ノ之^ノ勤^ヲ。夫^レ
不^レ我^レ與^ス。復^シ何^ノ言^ハ哉^{。可^ク立^テ一^ノ負^シ在^リ於^テ}
昔[、]善^ノ前[、]刻^之曰^{。漢^ノ有^レ道[、]以^テ姓^ト趙^ト}
名[、]嘉^ノ有^レ志[、]在^リ時^ノ命^也。奈何^{。其^レ後[、]}
疾[、]驟^シ云^{。と^{あり}。こ^も壽^ノ碑^{と^い}}
り^つぶ^すもの^こ趙^ノ嘉^ノ趙^ノ岐^ノ初^ノ
の^名し。又^云。斗^九寸^餘。建^安六^年。卒^す
先^自為^シ壽^ノ歲^{。圖^ノ季^ノ礼^ノ子^ノ産^ノ島^ノ}

嬰^ノ叔^ノ向^ノ曰^ク。像^ノ居^リ賓^ノ位^也。又^自畫^シ其^ノ
像^ノ。居^リ主^ノ位^也。曰^ク。為^シ讚^ノ頌^ノ。教^メ其^ノ子^ト
曰^ク。我^レ死^シ之^ノ日<sup>。是^レ中[、]聚^シ沙^ヲ為^シ鉢^ト。布^ト
單^ト。白^ク衣^ト。散^シ髮^ト。其^レ上[、]覆^シ以^テ單^ト。被^ス
即^日。便^シ下<sup>。訖[、]便^シ掩^シ坎^ト。泣^ク。泣^ク。泣^ク。
壽^ノ歲<sup>。謂^ク家^ノ壙^也。稱^シ壽^ノ者^{。取^シ其^ノ}
久^ク遠^ク之^ノ意^也。猶^如壽^ノ官^{。壽^ノ器^ノ之^ノ}
類^也。す^{。同^書。侯^ノ隨^ガ伯^ノ子^ノ豫^ノ作^シ}
壽^ノ家<sup>。石^ノ櫛<sup>。雙^ノ闕<sup>。高^ノ廡^{。而^レ尺^ノ寸^ノ}
位^ノ子^ノ生^レ而^レ自^レ為^シ家^{。為^シ壽^ノ家^{。云^{。し^{。按}}}}</sup></sup></sup></sup></sup></sup>

子皇國の書家、純紫君、龍井が
善也や、そのまじり、其の子、聖
徳太子の科長、善也、趙岐、
文、朴、考、る、ま、可、く、る、り、く、い、國、は、
し、め、き、并、せ、し、こ、併、家、の、孔、相、の、頭、北
面、西、也、と、い、ふ、り、

○九 風、天、の、號、を

風、天、の、號、を、い、ふ、り、く、人、君、風
災、火、恐、る、と、最、也、後、漢、書、
張、奐、傳、の、奐、上、疏、曰、臣、聞、風、為、

號、と、勳、物、通、氣、は、子、翼、氏、風、南
曰、凡、風、者、天、之、號、也、所、以、謹、告
人、君、者、也、と、い、ふ、也、

○廿 李杜

唐の詩人李白、杜甫、李杜と
稱、後、漢、書、杜、密、傳、の、李、膺、と
杜、密、を、所、稱、李、杜、也、と、い、ふ、
李白、杜甫、は、李、杜、と、い、ふ、

○廿一 家學

家學といふ、其家、の、子、傳、へ、る、學、也、

しり、本朝四道の家の学のみぞ。
後漢書、し皇付の皇少習家学。
泣の家の尚書とありに孔安国が子
孫せ尚書の世習のなりに印本
の訓の誤たいに讀改づし

世三 土山

土山い土山積て築る山也。後
漢書、朱儁傳の張園統起土
山に臨城内を攻め近江に土山とい
ふ驛名あり。古の草木も也。土

ありしよのやうなるものもあらず。鹿

嶋郡の土山あり。近江に石山あり

世三 天子の賢と公卿と賢と

應仁の亂に山名細川五子天子の賢と

と百官の賢とあり。事一のことと

後漢書、董卓傳に卓のお李儼は

天子の賢とあり。郭汜は百官の賢と

あり。分年やと偽漢、同日の談

とあり

世四 食を兼肉

兵清文政七年正月元日... 志は
起るに食子并肉は絶り客と
對し他子客する時... 以後
漢劉虞の子... 爲上公元
惟節約敬衣繩履食を兼肉
とくも

廿四 義徒

後漢書公孫瓚傳... 瓚常與
善射之士數十人皆乘白馬以爲
左右翼自號白馬義徒也

子義徒... 義を紹へ相徒... 此傳早
雪の七士と興... 義徒と子

廿五 上東門

後漢書袁紹傳... 紹勃然曰天下
健者豈惟董公... 長揖徑出
懸節於上東門而奔冀州... 泣
二洛陽城東面北頭門也... 皇
國の上東門は... 名也

廿六 逆取順守

逆取順守... 義絶不出... 西晉

史記卷之六
丹徒德錄尚湯
逆取順守方上
儒謂湯武逆取而
順守此言非也尚武
湯武革命順乎天而
應乎人豈有逆而可
以順天應人乎若行
曰以亂取國孝禮以守
猶懼不終孝子
猶知其不終也而
謂湯武為之乎此曰
逆取順守之也
史記卷之六
史記卷之六
史記卷之六

後漢書袁譚傳所謂逆取
順守而徵富強於一世也
君子遠難不適離國交絕不出
惡聲君子左傳曰公山不狃曰
君子遠難不適離國杜預曰遠
難不適也史記樂毅責燕書曰
臣聞古之君子交絕不出惡聲
同呂布傳子宮因說鮪曰今天下

廿四

回戰之地

說鮪曰今天下

分崩雄桀並起君擁十萬之
衆當曰戰之地乎注陳留地乎
曰面受敵故謂之曰戰之地也
陳宮之陳宮也張願之白雲曰
織田信長北條氏康成曰戰の
地也功也云々英雄其地也

廿五

野心

俗子叛心者此野心也
野心者心也野心者心也

也。後漢書。呂布。子。操。布。狼子野心。誠難久養。注。子。大。伯。石。之。生。也。叔。向。之。母。視。之。曰。是。豺。狼。之。聲。也。狼。子。野。心。操。曹。操。

後漢書。劉寵。傳。山。民。愿。朴。乃。有。白。布。不。入。布。井。者。注。凡。俗。通。曰。俗。說。布。井。者。言。至。布。當。有。所。鄉。南。貴。當。於。井。上。先。濯。乃。到。布。也。

謹按春秋井田記。人年三十受田百畝。以食。且口。為一戶。父母。妻。子。也。公田十畝。廬舍。且畝。成田一項。十畝。八家。而九頃。二十畝。共為一井。廬舍在內。貴人也。公田次之。重公也。私田在外。賤私也。井田之義。一。凡。俗。說。布。井。者。言。至。布。當。有。所。鄉。南。貴。當。於。井。上。先。濯。乃。到。布。也。貸。因。井。為。布。之。交易。而。退。故。稱。布。井。也。放。曰。布。井。者。言。至。布。當。有。所。鄉。南。貴。當。於。井。上。先。濯。乃。到。布。也。

ありて市井地成り

廿一 内政

今の弘才者人の事地稱て内政と
しり後漢書官者傳より引用し
て礼記月令の鄭玄の注より周礼
地引くる文に周禮内宰のありるを

廿二 川之川で果る

俗言より川之川で果るより後
漢書官者傳より此始必以此後
き注より左傳より楚屈平曰君以此

漢書二冊
孝夕録針
三行り人
漢書終
世祖紀
廿二
廿三

始必以此後也よりるの事相成り

廿三 二股武士

世より二股武士と云ふは兩壘と云
つて後漢書單超傳より徐計虎
唐兩壘と云ふ注より兩壘謂隨意所
為不定也今人謂持兩端而任意
為兩壘と云ふ徐璠唐書

廿四 御溝

皇居宮苑の水也御溝といふ後

漢書曹日節傳子澄取御水以作
美釣注之水入宮苑為御水也
後漢書周澤傳子書敬宗廟奉
卧病齋宮書子師子伊勢齋宮の
字よりこよまひこし

(廿四)

宣樓

書の重復ハ復重トハ一ハ後
漢書鍾興傳二念定春秋三身句
去其復重トス

(廿七)

烏澣人

三代實録二烏澣人ト云ク壻囊抄
二そのやし一後漢書南蠻傳
子交趾云々其西有噉人因生首
子輒解而食之謂之宜弟味
則以遺其君喜而賞之
取書美則鏡其兄今烏澣
是也注子為震南州異物志曰
烏澣地名也在廣州之南交州
之北恒出通問伺候行旅輒出

擊之利得人食之不負其財貨
並以其肉為肴有起又取其鬮體
破之以飲酒以人孝趾為珍異以
食長老云々

世 陰陽石

鶴岡ハ陽宮の社也子陰陽石あり
男根と女陰との祀ありて女石の方面
孝滙あり後漢書南郡傳巴郡
南郡密之注子荆州圖曰荆州
縣西有滙泉古老相傳此泉元出

鹽于今亦有鹽氣縣西一獨山
有石穴有二大石無立穴中相去
可一丈俗名陰陽石陰石常
陰陽石常燦々同日の法云々

世 三峰山

武藏國秩父郡子三峰山あり
峰この並立る力豆の名しといふ箱
根の二子山二並の筑波山也といふ
おのいふ名けし後漢書

西羌傳の注に三危山在沙州
敦煌縣東南山有三峰故曰三
危也

雷

後漢書西域傳沙卑國西經
蒲卑在雷至大月氏其國之
雷とよみ地名も雷也地は
たつとつて新泰澄雷神傳
しん越の国上山四十里四方
なりとつて雷の地なりとつて

雷

後漢書西域傳の論に佛道
の論に且好仁慈殺獨
以賢序君子多愛法焉
好大不怪奇論在已雖
天之辯杜周鳩角論尚
既中其島一之注に維摩經

後漢書南匈奴傳に班彪曰臣見

其獻益重其國益虛後親愈
事為懼愈多今の世も人子贈
物も厚し表は飾りて實質困窮
の貧人あり

四三 子まの母も厚し

阿闍世王の父は殺さんときり
母もいひ殺し伸説子父は殺し
母もいひ殺しと母は殺さるもの
はまかり後漢書烏桓傳子
則殺父兄而伏不言其母以母

有族類父兄を相仇報故也と
由は存靈異寶物集也と云
の火丸其母は殺さんといふ
かぞへる

四四 死者湯殿立にならざるの湯に
二つあり

借る死者湯殿立にならざるの湯に
とあり臨み候子まの詣る者
必死す父母は師なるといふ
とあり。後漢書烏桓傳死者

三。神靈。歸。并。山。之。在。遠。東。西。
北。數。千。里。如。中。國。人。死。者。魂。神。歸。并。
岱。山。也。注。子。博。物。志。亦。云。天。帝。孫。
也。主。召。人。魂。東。方。為。物。始。故。知。其。
生。命。之。有。和。漢。相。似。之。談。と。し。
づ。

Empire of China

Empire of China

Empire of China

Handwritten text, possibly a name or title, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a name or title, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a name or title, written vertically in cursive.



